

# 新山協ニュース

▲ 発行者 鈴木敏雄 ▲ 発行所 新潟県山岳協会  
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

## 第26回

### 海外登山技術研究会報告

海外登山委員会 田中純夫

#### 第26回海外登山技術研究会

がさる2月20、21日の二日間  
にわたって東京、八王子市の  
大学セミナーハウスで開催さ  
れた。この研究会は、これま  
で主にヒマラヤの高峰登山を  
対象として、高所医学、ヒマ  
ラヤの気象・地形・氷河、タ  
クティックス、高峰登山家の  
体力科学とトレーニングなど、  
時代、時代に即した幅広いテ  
ーマで報告及び研究を行なっ  
てきたもので、最近ではアル  
パイン・スタイルによる速攻  
登山、8000m峰の無酸素  
登山、冬期8000m峰登山  
などが主テーマとして取り上  
げられてきた。昨年度は、夏  
のK2大量遭難を一つの警鐘  
として捉えて「高峰登山の攻  
撃と防御」というテーマで開  
催されたが、時間不足であっ  
たため、今回はそのパート2  
として「タクティックスと登  
山者側のスタミナ」について  
攻撃面と防御面の双方から深  
く掘り下げようと企画された

ものである。

日程第一日は午後2時よ  
り開会。参加者は日山協役員  
及び海外常任委員・特別委員、  
87年、88年の海外登山隊員、  
各都道府県岳連(協会)海外  
担当者など総勢101名。ま  
ず日山協鎌田久会長の挨拶の  
あと、当初予定されていた日  
程を変更してセッションの  
研究会が「高峰登山における  
攻撃と防御」というテーマで  
行なわれた。ここでは名古屋  
の高山研究所所長原真氏の  
「高峰登山のための低圧訓練  
について」という基調講演の  
あと、参会者からの質疑応答  
を混えたフリー・ディスカッ  
ションが行なわれた。

- ② 日山協海外委員会の現状に  
ついて
  - ③ 第一回東北地区海外登山技  
術研究会について(昭和62  
年11月、仙台市)
  - ④ 近畿ブロック海外登山研究  
会について
  - ⑤ 海外登山女性懇談会につい  
て
- これは初めての試みで、日  
山協海外委員会と都岳連と  
の共催で行なわれた。  
参加者80名。
- 第一日目最終日程はセッシ  
ョンⅡとして筑波大学体育科  
学系運動生理学教室の浅野勝  
己氏より「高峰登山家のスタ  
ミナ」と題して研究発表がな  
された。同氏は一流登山家の  
体力データの分析結果に基づ  
いて、高峰登山に必要なスタ  
ミナについて考察を進められ、  
最大酸素摂取能力、心拍数、  
血中乳酸濃度応答、呼吸活動  
機能、筋力・パワーおよび柔  
軟性などの比較をして、我々  
に興味深いデータを示された。  
そして最後に「高峰登山者は  
低圧低酸素という異常環境で、  
危険というものを常に考えて  
いかなければならない。その  
ためには我々は基本的な高所
- ① カラコルムの冬期登山――  
冬のバルトロ氷河偵察報告  
(日本ヒマラヤ協会)
  - ② 冬期アンナプルナー峰南壁  
(群馬県岳連)
  - ③ 冬期アンナプルナー峰北面  
(カモシカ同人)
  - ④ 冬期アンナプルナー南峰(白  
峰会)
- 続くセッションⅣでは登山  
報告として、日本ヒマラヤ協  
会の山森欣一氏よりヒマラヤ  
諸国の最新情報について報告  
がなされ、少し時間をオーバ  
ーして昼食となった。
- 午後はセッションⅤとして

障害予防を考えていくべきで  
あり、登山者の体力特性とし  
ては行動体力のみならず、防  
衛体力の面もあわせて高めて  
行く必要がある。そのために  
は毎日の生活の中に体力トレ  
ーニングというものを考え、  
そして実施していく必要がある  
」と強調されたのは強く印  
象に残る提言であった。



第5回 韓日親善交流登山

雪岳山

越稜山岳会 山田 智子

日山協海外担当理事の高橋善数氏よりヨーロッパ・グランプリの報告があり、世界のクライミングの現状について説明がなされた。ヨーロッパ・グランプリの様様についてはビデオが映し出されたが、世界のレベルの高さについては驚くべき程であった。

以上で全日程を終了し、午後2時30分、神崎委員長より閉会の挨拶があり、散会となった。

なお、日程第一日目の夜、神崎委員長、尾形好雄理事、宮城、岩手、青森、秋田の各県岳連の代表者および隣接県という事で新潟の筆者を加えて小会議が開かれ、63年度の日山協海外委員総会は東京を離れて仙台市で行なわれることに決った。東北6県では62年11月に初めて東北地区海外登山技術研究会が行なわれたこともあって、その第2回目と抱き合せて日山協海外委員総会が開催される形となる。海外委員会を地方で開催して地方の活性化、情報提供につながるという日山協の考えである。

昭和62年11月7日、12時55分、天気吹雪、温度マイナス13度、視界10m弱、寒風が頬を叩く雪岳山の頂き。終始トップでリードしてくれた金瀧夫氏の差し出す手を握りながら、カムサニダ(ありがたい)を連発して山頂に立った。韓国勢6名と日本勢12名の韓日合同隊は、満面の笑みと強い握手でお互いの労を痛い感謝と喜びを伝え合った。

の念を強くしている。私達も日本へ来られた時には何かをして上げなければ—という気持ちが湧き、訪日、訪韓の折は勿論のこと、手紙や電話などでも一生懸命おつき合いをさせて戴いている。回を重ねる毎に、相互の国の言葉を覚えていこうというムードも上昇して、あちらの会長さんは個人レッスンを受けていると話され、今回も車には日本語会話のテープが積んであった。第4回の奥穂高岳に訪日した柳哲烈氏が言った「もっとお互いの国の言葉を話せたら、いろんなことが解り合えるのに—」には、勉強不足を大いに反省させられた。実際このたびも、雪岳山は10月で閉山しており、特別に入山許可をして下さったのである。コース選定の段階でお互いの言葉の不自由さから、理解し合うのに時間がかかり、登山センターでの交渉が夜中の1時過ぎにまでおよんだ。標高1700mながら、海岸0mからの登山は、どのコースも日帰りが無理だったり、1シーズンに30名も落ちて居る岩場を通るとか、安易に登れないんだと厳しい。さりとてその辺をハイキングして帰るには忍びない。とにかく頂きに立てるコースをと強気で交渉、結局登り8時間、下り3時間の外雪岳山南回りコースを許可して戴いた。しかし、日帰りに強行過ぎるので、山頂小屋到着のタイム・リミットを14時とし、遅くなった場合は小屋泊りと決めた。あちらの山男達も一泊か日帰りかで迷っている様子で、出発時間の変更を繰り返す。決まらないう眠れないので、ついに行きますからはっきりして下さいと、少々声を荒立たせて要望。言葉の不自由さを早く解消しなければならぬと痛切に感じさせられた。

11月6日/9日の日程で、姉妹山岳会の韓国晶元山岳会との、第5回親善交流登山を楽しんで来た。このたびは58年6月の第1回に雨で登頂できなかった雪岳山へ、再度挑戦した雪辱登山でもあった。

締結が実って最初の招請は晶元山岳会から戴き、58年6月に雪岳山を計画して10名が訪韓した。その後、第2回、谷川岳と白馬岳に6名訪日、第3回、智異山に4名訪韓、第4回、奥穂高岳に5名訪日、そしてこのたびの第5回は雪岳山に12名が訪韓し、順調に

友誼を深めてきた。第1回の訪韓で受けた身に余るほどの歓待と山屋の熱き心は、強烈な印象として今に残り、その後も変らない礼儀ある心づかいと優しい眼差しに増々畏敬

が経過している。韓国晶元山岳会とのそもそもの出会いは、晶元山岳会のヒマラヤ・マナスル遠征隊の隊員と、県山岳協会の1人が話し合う機会があり、その

と厳しい。さりとてその辺をあの唐辛子の赤は辛さよりも

訪韓で受けた身に余るほどの歓待と山屋の熱き心は、強烈な印象として今に残り、その後も変らない礼儀ある心づかいと優しい眼差しに増々畏敬

と厳しい。さりとてその辺をあの唐辛子の赤は辛さよりも



印象が強い。17世紀の初めに通信史が日本より持ちかえったというから、日本が唐半子のご本家なのだそうである。又若い娘さんがお茶うけにニンニクを食べているというから脱帽である。

何はともあれ、第5回の親善交流登山も雪岳山を登頂して無事終了することができた。ようやく軌道に乗ったこの交

協会創立40周年記念事業・中国の旅 その3

中国管見 ②

上野 壽 一

吹雪かれて登りつめたる  
ソラクサン  
설악산 (雪岳山)  
下山は暗れて  
야삼암니즈  
감시합니다  
(ありがとう)

付は売主の自由である。この外に、中国には友誼商店と称する外人専用の土産物を中心とした雑貨店がある。勿論国営であるが、ここでの値引きがあるのかないのかは知らない。大体、友誼商店で値切って買物をするという考えが浮かばなかった。友誼商店では、兌換券しか通用しない。

は、国営商店、自由商店、そして友誼商店の3ヶ所で、似たようなものが買えて、しかも値段が夫々違うということである。前に一物二価と書いたけれども、実は一物三価なのである。しかも、その夫々の価格形成が異なる原理によって行われているように思われるのが、よその国のことながら気になるところである。

十、万里の長城

今回も、旅行の最後は北京で、着いた翌日は万里の長城へ行った。私は二回目であるが、一回目の時と同じように快晴であり、時間的には約1ヶ月早い。二回目となると、どうしても感激が薄くなる。

実際に構築したというようなことを実際に見まして、非常に日本人と違うんじゃないかと感じたわけですよ。日本人の場合には、ああいうふうな山を壁でつなぐというような発想は、あるいは少しはあったかもしれないけれど、大体発想自体がなかったのではないかと、仮にそういう発想があったとしても、そういうものを構築していかないわけですね。皆んな山の頂上に城を一つ築いて、その回りに濠かなんか掘ってというようなのが日本の形なんです。

九、物の値段

8月23日、長春の吉林省博物館を参観して、構内の売店で鶏血石の印材を買った。かねて心掛けていたものをガラステースの中に見つけて、手に取ってみると500元と値札がついている。この時若い通訳が寄ってきて、何やら売店の売子に言っている。100元値引きするそうですと通訳。まだ、手中に印材をひねり回している私を見て、更に通訳と売子の応酬があって、350元にするそうですと通

訳が言う。私はその値段で買った。勿論、国営商店である。国営商店で値引きがあるということは、初めての経験である。初めから、国営だから現金正価と思い込んでいたのが、こちらの不覚かもしれない。8年前には、誰も値引きのことも教えてくれなかった。これに味をしめて、通化の花硯工場の売店では、何元かをまけさせて、湖筆を買った。前にも書いたように、国営市場の外に自由市場がある。ここでの価格形成は、需給関係によるものであるが、値

脇道へそれるが、兌換券(外貨兌換券)について書き留めておく。一般に中国内を流通する紙幣は、中国人民銀行発行の人民幣である。勿論中国人はこれを使う。これに對して、兌換券は同じく中国人民銀行の発行で、人民幣と券種も同じであるが、兌換券は、外貨から交換されたお金であることを示す。そして、人民幣と兌換券も同価値であるが、実際は兌換券が人民幣より高い評価を受けている。それは、輸入品など兌換券でなければ買えないものがあるからである。

元来、外人専用の友誼商店が、近頃は時間を限って中国人にも解放されている由である。物の値段として考えたこと

「日本人と中国人の違いということですけれども、長城の壁の上を実際に歩いてみまして、あの連綿たる山並をああいう堅固な壁でつなぐというふうな発想、しかもそれを

もちろん社会的な背景というふうなもの、あるいは歴史的な背景というふうなものが違うということもあるでしょうけれども、何かそういうところに非常に大きな違いがあるんじゃないだろうか。そして沈陽の故宮とか、定陵の地下宮殿にも言えることですが、ものを考える時間の単位とか、あるいは地域的な広がりや単位とかいうふうなものが、どうもわれわれとは違うような感じがしましたですね」

こんな風に思って、私は長城を歩いて見て中国人の心に触れた思いがした。そしてそ



の思いは今回も同じであったが、もうひとつ思ったことは、こういうものを作った「権力」と使役された民衆の「悲劇」である。この「権力」と「悲劇」については、もう少し思いを深めたいと思っている。

十一、建築について

新中国の建設は、先ず生産拡大の努力から始まった。そのためは、集まってくる工人の住居の確保が何よりも必要なことであった。前回の時は、都市郊外に立ち並ぶアパート群をみて、この事を如実に見た思いがした。上海にしても、北京にしても、東北の工業都市にしても、街の中心部はそのままにして、郊外に4〜5階建のアパートが建てられて、その集合として住宅団地を形成しているところもあった。郊外開発はアパート建設を中心に進んだようだが、都市の中心部の再開発は、どの都市でも手つかずの状態であるのが、8年前の様相であった。然し、今回行って、この状況が少しずつ変わっているように見受けられた。郊外のアパートは建設後20〜10年位たつものが多いだろうから、その建て替えと新規建設の両方であろうが、新しいものが、どの都市にも建設中であった。しかも新しいものは、10階を超える高層建築が多いし、4〜5階の古いものに比べると、外装も立派である。外観だけからの推論は危険であるが、取り急いで住居を確保する必要のあった4〜5階のアパートから、高層の高級アパートへの変化は建築技術の変化と共に、生活の変化を意味するのではないだろうか。高層化と高級化は矢張りひとつの革新なのではないか。もうひとつは、都心近くにおける高層建築である。どの都市でも建設中のものが殆どであったが、通訳に聞くと、ホテルだという。自前のものも、外資との提携のものもあるが、都心近くでの高層建築は一方では、都市の再開発に連なるものである。外人誘致のためのホテル建設を通じて、都市再開発の予徴が感じられる。因みに、北京での宿は麗都賓館即ち「ホリデー・イン」であり、最後の日程で漸くホテルらしいホテルに泊まることができた。都心の鉄筋建築が殆ど戦前のものであること

を思うと、これらの建て替えも徐々に行われるであろうが、これに手がつけられる時が、本格的な都市再開発の始まりとなるのであろう。

(62・9・15)

婦人部親睦登山

のご案内

- ◎白鳥山に登って  
日本海を見下ろそう！
- 1.主催 新潟県山岳協会 婦人部
- 2.後援 さわがに山岳会
- 3.日時 昭和63年5月28日(夜) 29日(日)
- 4.山名 白鳥山(しらとりやま) 1286・9m
- 5.宿舎 西頸城郡青海町 上路(あげろ)公民館
- 6.装備 春日日帰り装備 (雨具、水筒、朝・昼食)
- 7.会費 1,000円(宿泊の謝礼、通信費)
- 8.日程 28日(土) 19時より懇親会。22時就寝。
- 29日(日) 6時30分宿舎出発(各自の車) ↓ 登山口 ↓ 坂田峠 ↓ シキワリ ↓ 白鳥山
- 12時下山開始、15時頃解散予定

◎白鳥山概要

北アルプス最北の千m峰で、南稜、北稜(梅海新道)と西稜(県境)を伸ばした秀麗な山容をなしている。

登山道は頸城縦貫林道の途中から、旧北陸街道(山廻りコース)を登って坂田峠に出る。頂上は北に日本海を見下ろし、南に飛騨山脈の主稜線が延びて犬ヶ岳、朝日岳に続く。

地質、地形、植生からも3kmから0mの間にあつて、非常に興味のある山である。(小野 健)

教習種目 大型・普通(第1種)大特  
自二輪・身障者用各種自動車

中条自動車学校

北蒲原郡中条町大字高野字茨島  
中条(0254)44-8071  
社長 高野愛子

読書は万能の基

新潟市営所通1-301

学生書房

電話 025-222-9870番